

第13回「道の駅」第3ステージ推進委員会 議事概要

令和7年3月21日

○議事（１）「道の駅」第3ステージの最近の取組

（評価室より資料1について説明。）

【根岸委員】

・人口が減少していく中で、地域の地方創生の拠点として「道の駅」は非常に期待が高い。交通、経済、産業の拠点として、まち全体で取り組むことが地方創生にとって重要。今回の応援パッケージに応募された取組は参考になると思うので、まちぐるみで取り組もうとしている自治体に対してサポート、情報提供があると良い。

・防災について、「道の駅」駅同士の繋がりに加え、「道の駅」と道守等の地域の皆さん、そして行政の連携についてもサポートや情報提供があると良い。

・災害時の活動に関する費用負担について、県と県内の「道の駅」が結んでいる協定などを参考に、「道の駅」がお金の心配をしなくていいように取組を進めることが重要。

【楓委員】

・地域の防災計画を考える際には、地域内のどこに高付加価値コンテナを配置するかといった点を含め、地域全体のデザインを考慮することが必要。市町村に対して情報提供を行う際も、全体設計の重要性を踏まえて対応すべき。

・高付加価値コンテナについて、平時のメンテナンスに対してのサポート体制も考える必要がある。

・平時の高付加価値コンテナの活用について、利用者にその意味合いを理解していただき、親しみを持っていただくためにも、コンテナのデザイン性を考慮した方が良い。そのためのサポートも必要。

【篠原委員】

・インバウンド観光客数は順調に伸びており、2030年に6,000万人という目標にも届きそうだが、地方での観光消費は伸びていない。地方分散のため、観光と関係なかった地域にお客をどのように回すかを観光庁、内閣府で議論しており、「道の駅」と観光の役割も再度確認し、発信することが必要。

・観光にあまり取り組めていない地域を支援する「地域観光魅力向上事業」などについて、

「道の駅」に情報提供し、支援をすることが重要。

- ・観光庁の施策の中で、「道の駅」の観光面をもう一度磨き上げていくため、専用の説明会を、オンラインでも構わないので丁寧な情報の提供をしていくべきと話しているので、協力頂きたい。

【山田委員】

- ・「防災道の駅」ネットワークは、「道の駅」、市町村、都道府県、地方ブロック、全国と階層的なイメージかと思う。瀬戸内海の「道の駅」のように、中国ブロックと四国ブロックの境界付近に位置する例もあるので、階層に縛られず、有事の際に臨機応変に支援し合う考え方も必要ではないか。

【原委員】

- ・新地方創生交付金の対象は自治体であるが、平時に自治体が高付加価値コンテナを民間に貸し出すことは可能なのか。平時の使い方まで含め事例を交えて広報できると良い。
- ・防災について、災害発生時に「道の駅」が拠点になったとしても、必ずしも駅長がイニシアチブを取るわけではない。各自治体の防災計画における「道の駅」の位置づけと、駅長の位置づけをきめ細かく配慮して「防災道の駅」ネットワークを作っていただくと良い。

【石田委員長】

- ・「道の駅」による炊き出し実施などに関する費用負担については、国が関与すべきことでもないかもしれないが、全国「道の駅」連絡会の協力も得ながら、標準的なスキームなどを考えられると良い。

【国崎委員】

- ・内閣府でキッチンカーやトレーラーハウスの登録データベースを作成するとのことだが、駅長に対して活用を推進するために丁寧な情報提供が必要である点から「道の駅」に最適なデータベースを独自に作成されてはいいかがか。
- ・コンテナやトレーラーハウスの設置スペース、大きさ等の諸元、有する機能、必要なメンテナンスに関する情報、費用について取りまとめた一覧があると、「道の駅」設置するイメージの助けになるのではないか。
- ・「防災道の駅」ネットワークについて、災害時に実践的な活動に繋げるためブロックごとの受援計画を作ってはいかがか。その策定のために研修やワークショップを行い、顔の見える関係で受援計画を作ると、実践的なネットワークが実現できるのではないか。

○議事（２）全国道の駅連絡会からの報告

（全国道の駅連絡会より資料２について説明。）

【徳山委員】

・内閣としても地方創生に力を入れ、いろいろな交付金や新しい取組も出てくるので、お示しいただいた方向で実現に向けたサポートを是非進めて欲しい。

・アドバイザー制度を新設するのであれば何か公式な位置づけがあると良いと思う。全国道の駅連絡会が、国も公認したサポートセンターのようになると、「道の駅」全体としてもメリットがある。

・アドバイザーの登録や依頼は、道の駅ブロック連絡会か女性駅長会に申請する形になっているが、手続きの手間が懸念されるのではないかな。

【根岸委員】

・大学生が「道の駅」でインターンシップに取り組むケースもあるが、受け入れるだけの力のある「道の駅」とそうではないところがある。インターンシップ受入れのマッチングみたいなものを考えてみたらどうか。社会課題として地方創生を意識している学生も多い中で、実際に現場で地方創生を考える、チャレンジする若者を応援するような仕掛けがあってもいい。

【石田委員長】

・アドバイザー制度について、マーケティングに関するニーズが高いと考えるので、良い形になるように進めてほしい。

・情報提供として、EV充電インフラ整備については、世界的には250kWや350kWの充電器もあり、さらに3～4分の充電で400km走れるような環境整備も進められている状況にある。

【原委員】

・「道の駅」のECサイトについて、「現地に行かなければ購入できない」という要素も「道の駅」におけるウリの一つと考える。「道の駅」とEC販売の関係性にも配慮が必要と考える。

—— 了 ——